

令和2年度「テレワーク活用ネットワーク会議」第1回会議の議事概要

日時 令和2年9月2日(水) 13:30~15:00

場所 TOKUSHIMA AWorking AI (トクシマ アーキング アイ) 徳島県庁10階

出席委員(6名)

副会長	米澤 和美	徳島県社会保険労務士会会長
委員	川原 雅好	株式会社エル・イズ・ビー
委員	清瀬 由香	特定非営利活動法人チルドリン徳島
委員	竹内 真由美	フリーランス
委員	田澤 由利	株式会社テレワークマネジメント代表取締役
委員	葛籠 枝美	株式会社テレコメディア徳島支社人事部部長

猪子会長、佐々木委員は欠席。

●質疑(意見交換)

委員

- ・本日、1人〇〇という者がオブザーバーというか見学という形で参加させていただいております。昨日入社したばかりの者でございます。コロナがはじまった後にうちに応募があり、オンラインでの面接を繰り返し、結果昨日から入社をしております。直接は会っておりません。昨日から私のバーチャルかばん持ちをしていただいております。
- ・数値としてはビフォーコロナは約2割の企業がテレワークを制度として導入していた。在宅勤務にまで落としちゃうと1割ぐらいしかなかったという状況です。テレワークを利用する従業員の割合まで突っ込んできいてみると、なんと利用者は5%未満。人にきいてみると、在宅勤務とかテレワークの経験あるよって人は8.4%、やりたいって人は14.6%。これがビフォーコロナの実態です。
- ・コロナ禍に入りまして、東京商工リサーチのデータで、56%。中小に至っても半分以上。働く人の側からもきいてみると、約3割。3割が、今回短い間に在宅勤務をしたという事実、これはすごい威力だと思っています。働く人の意識もしっかり変わりました、効率は下がったって人が多いです。当然だと思います。でもそういう状況の中でも自宅の勤務に満足してるっていうのは逆転して増えてます。さらに今後も続けたってっていうのはさらに増えて

る。がらっと働く人の意識が変わっている。ここでちゃんといい方向に進むか、やっぱりだめだったよねになるかっていうのは非常に重要。

- ・ 東京の企業は変わりはじめています。オフィス，解約するところ，縮小するところ，用途変更するところがいっぱいできています。会社自体の働き方もごそっと変わりはじめています。現業の会社が，本社機能だけは在宅勤務をしましょうというような，そういう動きを見せてきています。大きな企業が在宅勤務を当たり前にしたたり何割在宅勤務に変えますって宣言したり，あるいはジョブ型とか日本の働き方自体が今回のことで変わろうとしています。
- ・ もう1つは，ワーケーションというキーワードがずっと言われております。ワーケーションを成功させるには企業がしっかりするべき4つのステップというのは，昨日私が寄稿したITメディアのビジネスに寄稿した原稿です。もし良かったらご参考ください。
- ・ 今はすごい大きな岐路にある。ビフォーコロナはどっちかというところと福利厚生が強いテレワークだったのが，アンダーコロナで大変だったけど，ちょっと落ち着いた中で両立をし始める，ここでしっかり変革をしようというのがテレワークにおいて一番いいパターンで，徳島県の企業さん達にしっかりアピールをいただけたら。逆戻りしたところは人材不足がすごい加速します。いい人材をキャッチできる大きな武器だと，私は考えています。
- ・ 国もですね，色んな助成金出して一生懸命やってらっしゃる中で，終わったものもいくつかございます。新しく出てきた情報ってというのはしっかりつかんでいただけたらなと思います。
- ・ 徳島県さん自身もテレワークここまで進められてきたんですから，他の県とかに追い付かれないようにしないとイケない。
- ・ 緊急時何したらいいかについては，とにかく用意してください，駄目だったらBYOD。あと，紙が原本だったら，デジタルを原本にしてクラウドにおいて，必要になったら紙とってきて，紙をスキャンしてアップしなさいみたいな，そんな感じでお話をしています。
- ・ 情報漏洩に関しましては，リモートデスクトップを推奨しています。NTT東日本とIPA，経産省の外郭団体がやってる新テレワークシステム，これ結構いい感じですよ。あと，管理ができないっていうことに関しては，在宅勤務

だから全然マネージメントしないっていうところは、すごいぼろぼろになってます。テレワークでも時間管理できるツールがあるので、それ使って下さいと。

- ・評判が良かったのが、クラウドなオフィスをウェブ会議で作ったこと。ウェブ会議ツール、ZOOMとかTeamsとかを、クラウド上のオフィスに仕立て上げる。スピーカーだけONにして、必要であればマイクONにして。一緒に会社にいるような感覚を作っていく必要であれば会議室、別の所で会議。長野県の塩尻市さんが真似してくれて、在宅勤務で常時接続をして、けっこう良かったよと。

委員

- ・私も実は、このコロナになって自分の顧問先の中小企業さんから相談で、トラブルもありました。やってみたら色々困ったことがおきた。企業BCPっていう観点から、必ずそういうルール作りはしておかないといけないな思っております。

委員

- ・コロナで、特にオンライン会議システムのサポートに入ることが非常に多かったです。県の方、せっかくいらっしゃるので、お願いしたいのですが、県の建物で回線が止まっちゃったり、非常に多くの場面を感じてます。あと、持ってるパソコンのスペックが低すぎる。実際にクラウドにしたときに、さで困りましたよっていう所が、スタートラインというのを感じているので、きちんとそこは整備していただけたら。

委員

- ・ぜひそのところは県の施設お願いできたらなと。

委員

- ・6月7月になってから、入社して勤務するということも多くなってきている。次流行るまでに体制とかシステムとかを構築して、備えた方がいいと感じています。
- ・子供の小学校でこの間オンライン一斉通信テストというのをしたときに、子供は普通にオンラインでも話をしていて、私たちの世代が子供についていかなきゃいけないんだなというのを実感しました。

委員

- ・ありがとうございます。ほんとに色々な気づきがありますよね。富沢さん、二日目なんですけれども、オンラインでもOJTができるんだなというのを気付かせていただいて、いかがでしょうか。

オブザーバー

- ・二日目ですが、変な緊張感はないというか、なんでもかんでも直ぐ顔を見てチャットして、分からなかったらZOOMしようとか、やってくれますので、割とハードルは低いかと思っています。すごく喋りやすくなってきていると思っています。

委員

- ・どうもありがとうございます。すごくいい事例を見せていただいたなと思っております。

委員

- ・ZOOMやチャットを挟んだりするのも、対面でのコミュニケーションも、同じじゃないかなというのを感じてます。あと、テレワークが普及してくると営業活動がどのようになっていくんだろうという疑問があります。

委員

- ・今までどういう営業をされていましたか。

委員

- ・一般的な会社がやっているような所と同じです。紹介を受けたり、新規でアポイントをとったり、何らかの公募があって、そのプレゼンに参加するかです。

委員

- ・コンコン営業以外ではできるんじゃないかなと思っています。うちの会社の例をいいますと、それまでリアルなセミナーを東京の方でやってたんですが、これがオンラインになったら、こないだ1000人集まったんです。リアルで1000人なんて絶対に集められないですよ。逆にチャンスにできるんじゃないかなと思っております。

委員

- ・うちの会社も、東京の本社は完全に社員を2グループに分けて一週間交替の

出社となっています。営業のやり方も、オンラインとか電話とか、直接行かなくてもお客さんを集められる感じの体制に作り替えたりとか、セミナーもZOOMとかWebで予め録画しておいたりとか、あるいはリアルタイムでオンラインでとか、やり方が変わってきています。

- ・役所でも、具体的な事例とか、広く届けるような取組みをやっていただければ。

委員

- ・どうもありがとうございました。徳島でテレワークを広げていくのに、どうすればいいかというところを考えてみたいんですが、中小企業にとって、テレワークというと、やはりハードルがまだ高いと思います。例えば、とりあえずZOOMで、どういう風に使うか、っていうところから入って、まず遠隔地とどう繋がるかという経験をしていただいて、簡単じゃないかみたいなのところから入るとか、それもいいんじゃないかなと思ってます。

委員

- ・今のご意見に賛成です。セキュリティーがどうのとか、規則がどうのとかって入るよりも、まず離れてても、こうやって顔を見て喋ることがいつも通りでいいんだっていうことを、中小企業、特に経営者の方に体験してもらうことが大事。スマホで入るやり方だけを教える。まずやってもらうということを第一にして。

委員

- ・ZOOM研修とか、ZOOMしたいっていうリクエスト非常に多いです。今、企業様に対して、とにかくZOOMがしたいとか、とにかくオンラインで会議をどういう風に円滑に進めたらいいのかっていうのは、個々に対応はさせていただいております。何か継続的に、きっかけをどんどん、こちらの方も提案ができることがあったらなと、最近思っております。

委員

- ・されているようなファシリテーションとかの、もっと手前の今言ったような、とりあえずみんなが集まろうとかいう企画はどうでしょうか。

委員

- ・ZOOMの背景変えてみましょうっていうのが、かなりうけたんですよ。目で見て分かるっていうのは、すごくインパクトがあって、すごく身近に感じて下

さるのかなと思いました。皆さん、後ろに気にされていて、綺麗な部屋がないんですとか、どこでしたらいいですかとか、というのを壁紙簡単に変えれますよってというのが、わりと喜ばれたかなと。どうでしょう。難しいんですかね。顔、見るだけの方がいいかも知れない。

委員

- ・体験的なものがあると、すごくいいなあと思いますし、せっかく県という単位で、こうやって考えてらっしゃるので、みんなが集まって。なんだかんだとやってない人たちは、こんな風にしゃべれると思っていないですよ。昔のなんか、衛星中継みたいな感じで。そうじゃないことだけでも体験できれば。

委員：

- ・コロナに変わりました。一台のテレビ会議だけでは各部署が間に合わないということになり、ZOOMを使った会議というのが日常で行われるようになりました。あと、連絡とか、共有のツールが、メールが主体だったんですけれども、LINEを取り入れてます。上司の方も部下の方もラインに入っているんで、グループの中で一つの問題が起きたときにわりと素早い掛け合いができてくる。ZOOMにしる、ラインにしる、結構年配の方もなんて楽なんだっていうのが分かると思います。意外とやってみたら楽だし、時間も短縮になる、生産性が上がるみたいイメージがついてくると、いいんじゃないかと思いました。

委員

- ・どうもありがとうございました。またヒントを頂いたような気がします。他に何かご意見ございますでしょうか。

委員

- ・実際にミーティングしている、この映像を県のホームページであったり、どこかサイトに載せて、こういう会議がWebでできているんだよっていうのを見てもらってもいいのかなと思いました。もし問題なければ、これ画面キャプチャーさせていただいて、視覚的にも訴えできると思うんですね。

委員

- ・いいご意見ありがとうございました。とりあえず今回は静止画だけで、次回についてはまた県庁の方で、動画でちょっと検討して進めていきたいと思えます。

委員

- ・ライブ配信とかどうですか。

委員

- ・相談させていただきます。
- ・今日は、皆さん本当に、いいご意見頂きまして、次に向けて一歩進んでいけそうな、気がしております。お時間も来たようで、これで終了とさせていただきたいと思います。